

JAVISAが講習会

高視認性安全服の 3規格の違い学ぶ

高視認性安全服の実務者向け講習会が15日、東京都内で開かれた。ユニフォームメーカーなどの担当者約100人が参加し、高視認性安全服の三つの規格について学んだ。

日本高視認性安全服研究所（JAVISA、服部勝治所長）が主催した。交通事故などの抑止に効果がある蛍光色や再帰性反射材を使ったウェアへの関心は高まっている。規格は、高速道路や空港の保全などに従事する働く人に向けた日本工業規格「JIST8127」、一般向けの「JSSA 2001」、子供や自転車通学者に向けた「JATRAS001、002」がある。

講習会では、JAVISAの吉井秀雄代表理事が、導入が進んでいる海外の高視認性安全服の活用事例や、国内の現状について説明。実際に使う蛍光生地や再帰性反射材の面積について、実物を



講習会では蛍光生地を使う面積も説明した

を使い分かりやすく解説した。

吉井理事は、高視認性安全服は着用して約1年経過すると、退色など劣化すると話し「着用者にセルフチェックを促すことも重要」と指摘した。海外に比べて日本の導入が遅れていることについては「業界の責任として安全がいかに大切かユーザーに伝えなければならぬ」と強調した。